PRESS RELEASE

国立大学法人
徳島大学

令和7年11月25日

デジタル技術によって実現可能となった
口唇裂・口蓋裂児に対する超早期顎整形治療

～産まれたその日から哺乳を助け、形を整える新しい治療法～

＜報道概要＞

徳島大学病院口唇口蓋裂センター田中栄二教授、渡邉佳一郎講師らの診療グループは、デジタル技術を駆使することで口唇裂・口蓋裂*児に対する超早期顎整形治療を実施しており、その画期的な治療成果を令和 7 年 10 月に国際誌へ発表しました。出生直後から哺乳障害を来す、口唇裂・口蓋裂児に対して、院内出生の場合、出生 4～12 時間以内に哺乳床（プラスチック製の入れ歯のようなプレート）を装着し、初回授乳に間に合わせることで、哺乳困難を予防し、健全な成長発育を促すことができます。

現在、徳島大学病院口唇口蓋裂センターでは年間 10 名前後の口唇裂・口蓋裂児に対して超早期顎整形治療を適用しており、今後は、本治療法を日本全国、そして世界へ、口唇裂・口蓋裂児に対する顎整形治療のゴールドスタンダードとして広めてゆく予定です。

＊ 胎児が成長する過程で、顔は左右から伸びる突起が癒合（ゆごう）（接着）することによってつくられます。この癒合がうまくいかないと、その部位が離れたままで出生します。特に上唇が割れた状態を口唇裂、口蓋（口の中の天井部分）が割れ、口と鼻が繋がっている状態を口蓋裂、上顎（上あご）の歯茎が断裂している状態を顎裂といいます。

徳島大学病院口唇口蓋裂センターは、平成 31 年 4 月に開設した四国唯一の口唇口蓋裂に特化した中核医療センターであり、口唇裂・口蓋裂患者に対して、複数の医科・歯科の診療科によるチーム医療を出生前から提供しています。

出生前診断によって、口唇裂・口蓋裂が検出された場合、出生直後に矯正歯科渡邉佳一郎講師らが口腔内スキャナーを持って NICU（新生児集中治療室）へ直行し、出生後 30 分程度で患児の口腔内を光学撮影します。光学撮影によって得られた表面データを基に、3D プリンターにて顎模型を製作し、その顎模型上にて哺乳床を作成します。出生から哺乳床装着までに要する時間は、院内出生の場合、4～12 時間で、できる限り初回授乳に間に合わせるようにしています。

初回授乳時から哺乳床を装着された患児は、健常な乳児と同様に正常な哺乳が可能となり、その後に生じやすい哺乳困難を予防することができます。本センターにて一連の治療を受けた両側性唇顎口蓋裂 3 名の症例報告が、アメリカ歯科医師会雑誌である『JADA Foundational Science』令和 7 年 10 月号に掲載されました（Watanabe K, Yoshinaga K, et al., JADA Foundational Science 2025;4(C):100055）。

770-8501
徳島市新蔵町二丁目 24 番地
電話番号 088-656-7021
https://www.tokushima-u.ac.jp /

現在、同センターにて顎整形治療を受ける口唇裂・口蓋裂児は年間10名前後で、徳島県の人口、出生率及び口唇裂・口蓋裂の発生率（約 500 人に 1 人）から算出される徳島県下での発生数を上回る患児が受診しています。今後は、超早期顎整形治療を国内に普及させるとともに、世界へも広めていけるよう、治療成績の評価など、臨床研究を進め、国際誌で継続的に発表していく予定です。

お問い合わせ先
徳島大学病院矯正歯科　診療科長/
口唇口蓋裂センター　副センター長
田中　栄二
電話番号　088-633-7357
メールアドレス　etanaka@tokushima-u.ac.jp